

Week8 (2024/1/27-2024/2/2)

「USCGA での第三週」

海上保安大学校国際業務課程 内田 洋都
真崎 輝



今週は、Rear Admiral Michael J. Johnston 大学校長との面会や、寮生活についての調査を行いました。

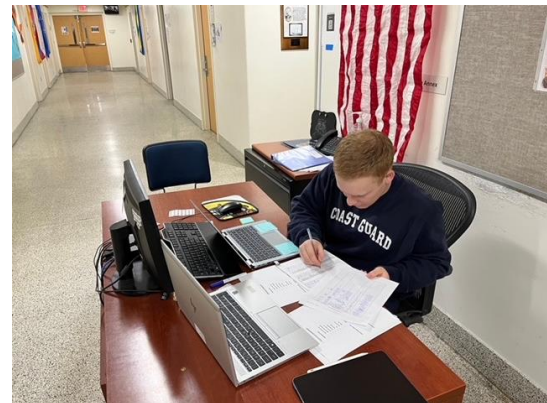
大学校長との面会

私たちは、1月30日（火）にジョンストン大学校長との面会を行い、海上保安大学校とUSCGAの違いについてや、海上保安大学校の教育についての意見交換を行いました。ジョンストン大学校長からは多くの質問をいただき、今後海上保安大学校とUSCGAがどのように協力を発展させられるかについて興味を示されていました。



USCGAの寮体制

USCGAの寮でも本校と同じように全学生をいくつかの班に分けて生活しています。部屋は同学年同士の2人部屋で、ベッドと学習機のためのシンプルな構成になっています。また当直制度としてはOOD (Officer Of the Day) と呼ばれる各班1名の4年生が、班の人員管理や居住エリアの巡検を行っています。容儀点検や生活指導なども学生間で行うようで、学生主体の寮運営が行われているように感じました。



研修生のコメント

USCGAに来てから三週間が経ちました。週末は友人とホッケーの試合を観に行ったり、ボーリングをしたりして過ごしています。USCGA近辺の主な移動手段は車で、電車やバスなどの交通網はあまり発達していません。そのため、休日の外出には車を持っている学生の手助けが必要になります。USCGAに来てから学生には助けられてばかりいますが、この恩はいつか将来仕事やプライベートでも返していきたいです。（内田 洋都）

ジョンストン学長との面談は終始和やかな雰囲気で行われ、海上保安庁や海上保安大学校について興味を持っていただいている様子を非常に嬉しく感じました。また、キャンパス内で学生と談笑する姿を何度も見かけ、気さくな方なのだと感じました。帰国前にもう一度面談の機会を設けていただいているので、更にUSCGAについて学び、より発展した議論が出来ればと思います。（真崎 輝）